

〈資料紹介〉

室生犀星の履歴書

室生犀星は明治三十五年五月、高等小学校を退学し、裁判所の給仕となった。従来、五月に裁判所に勤めたと諸年譜にあるが、退学の月日、及び自叙伝にみられる季節の描写によつて推定の域をでていなかった。今回、裁判所の履歴書を見ることができ確証を得た。

犀星の履歴書は二通ある。明治三十五年五月から三十八年六月のもの、三十八年十二月から四十二年のものがある。

「退学児童台帳」によれば、長町高等小学校を三十五年五月六日付で退学している。高等小学校三年（高等小学校は四年制）犀星、十三歳の時のことである。なか二日において三十五年五月九日付で金沢地方裁判所の給仕となった。当時の職制は傭人（給仕、延丁、小使）↓雇員（事務員）↓官吏（書記、判任官）↓判事（奏任官）で、給仕をほぼ一年間勤めると雇になった。給仕の初任給は二円五十銭、犀星は最下位の給仕として採用された。採用時の履歴書の氏名は、なぜか赤井照道となっている。犀星は二十九年に室生真乗の養嗣子となり戸籍上は室生姓であ

本 多 浩

る。ちなみに「長町高等小学校児童台帳」も赤井姓である。小学校の頃、室生と呼ばれていたかは明らかではない。「幼年時代」では室生と呼ばれている。近所の人達には「赤井のあんか」と呼ばれ、義兄、赤井真道は「赤井のあんちゃん」と呼ばれていたという。履歴書では二十六年十一月付で室生と改称している。自叙伝によれば真道に連れられて裁判所にいつている。この就職は真道によつて進められたのであろう。自分の弟として頼む折、赤井姓の方が都合がよかったのかもしれない。

赤井真道は犀星より五歳上、明治三十四年十二月十六日付で金沢地方裁判所の雇となつている。真道も給仕として勤めたとされるが、その時代の履歴書はない。真道は四十一年六月、書記登用試験に合格、七月に書記を任じられた。のち、大正十二年六月、依願免官するまで裁判所の書記として勤務した。

犀星履歴書の本籍は二通とも石川県金沢市千日町二番地、出生地も同じである。出生地は便義上のことであろう。

二通の履歴書の事項を年代順に誌しておく。

年 號	月	日	任 免 賞 罰 事 故	官 衙
明治三十五年	五月	九日	給仕ヲ命ス月給二円五十錢給与 職務勉勵ニ付金貳円賞與	金沢地方裁判所
々	一二	二四	室生ト改称ス月給貳円八拾錢給与	々
三十六年	一二	三〇	職務勉勵ニ付金貳円賞與	々
々	一二	二五	月給貳円九拾錢給与	々
三七	七	一三	月給參円拾錢給与	々
々	一二	一八	職務勉勵ニ付金（この行見消）	々
三七	一二	一七	月給參円拾錢給与	金沢地方裁判所
三八	六	三〇	月給參円參拾錢給与	金沢地方裁判所

年 号	月	日	事 項	廳 名
明治三十八	十二	六	雇ヲ命ス月給六円給與金沢区裁判所詰ヲ命ス	金沢地方裁判所
同 卅九年	三	一九	職務格別勉勵ニ付金五拾錢賞与ス	同
同	十二	五日	月給七円給与	同
同	同	廿五日	職務格別勉勵候ニ付金四円ヲ賞与ス	同
同 四十年	三月	廿五日	全 金七十錢ヲ賞與ス	同
明治四十年	三月	三十日	月給八円給與	同
同	十二月	廿三日	職務格別勉勵候ニ付金四円ヲ賞与ス	同
同 四十二年	三月	二十六日	同 金壹円ヲ賞與ス	同
同	十二月	廿一日	月給九圓給與ス	同
同	十二月	廿一日	金澤區裁判所金石出張所詰ヲ	同
同 四十二年	三月	廿六日	命ス	同
同	九月	廿八日	職務格別勉勵候ニ付壹円四拾錢ヲ賞與ス 依願解雇（自己の都合）	同